



目次

| | |
|-------------------------------|---|
| ● 一診療連携一 「外科」のご紹介 | 2 |
| ● 一職場紹介一 「診療放射線技師室」のご紹介 | 4 |
| ● 一トピック・お知らせ一 | 6 |
| ● 一新入職員紹介一 | 7 |

診療連携

外科

「外科」のご紹介



外科部長
大迫 政彦

はじめに

鹿児島市医師会病院の外科は、平成17年4月より田畑峯雄副院長をトップとする新体制に移行しました。昭和59年6月の開院以来21年に亘り外科を牽引してこられた迫田晃郎先生の実績と伝統を引き継ぎつつも、多くの変革を遂げてい

ます。従来にも増して院内各科との連携を密にし、境界領域の疾患は十分に意見を出し合いながら治療方針を決定しています。また高度化・専門化する手術手技に対応すべく、特に難易度の高い手術手技については術者・主治医をグループ化して安定した手術成績をあげています。

会員の皆様の要請に対し可能な限り対応すべく努力して参りますので宜しくお願いします。

診療体制及び状況

スタッフ：田畑峯雄副院長以下、部長2名（大迫、石崎）、科長1名（門野）、医長2名（酒瀬川、中島）、医員4名（本高、永田、山本、川津）の計10名です。さらに新臨床研修制度による研修医が数名ずつ研修しています。

外来：通常の外来診療は原則として火、木、土曜日です。担当は、大迫・門野が火曜日、田畑・石崎が木曜日、酒瀬川・中島が土曜日となっております。但し月、水、金曜の手術日にも初診、救急患者依頼について迅速に対応するため、当番制を敷いております。遠慮なくお問い合わせ下さい。空床のある限り対応しております。

手術：主な手術日は月、水、金曜日です。1週間に20例前後の手術に対応するため、火、木曜日にも婦人科と協調しつつ多くの待期手術を行っています。会員の共同利用施設として多くの先生方の御来院、御指導をお待ちしております。

病棟回診：毎週木曜日午後3時からは田畑副院長の回診が行われます。入院患者は常に90人前後のため、1時間半前後の時間が必要です。特に隔週で鹿児島大

学の臨床実習生が参加する時は、回診にも熱がはいります。

術前・術後カンファランス：開院以来続いているカンファランスは、毎週木曜日午後6時から行われています。昨年の病院機能評価受審を契機として院内の全職種が参加し、さらに充実したものとなりました。術前症例の検討（外科、産婦人科、消化器科、放射線科）と術後症例報告（外科、病理）を行っています。卒後研修の一貫として会員の先生方にも開放しております。是非一度覗いてみて下さい。

病棟カンファランス：外科病棟は5階と8階の二つに分かれているため、曜日を換えて行っています。5階病棟は月曜日、8階病棟は水曜日の午前8時から30分間です。カンファランスの前日には病棟医長（5階：大迫、8階：石崎）が全入院患者のカルテ監査を行い、記載内容、手術記録、検査結果などをチェックしています。カンファランスでは医師、看護師が問題点を出し合いながら診療・看護・治療計画の立案、問題点に関する対策の検討を行っています。今後は薬剤部を含む他職種の参加も調整中です。

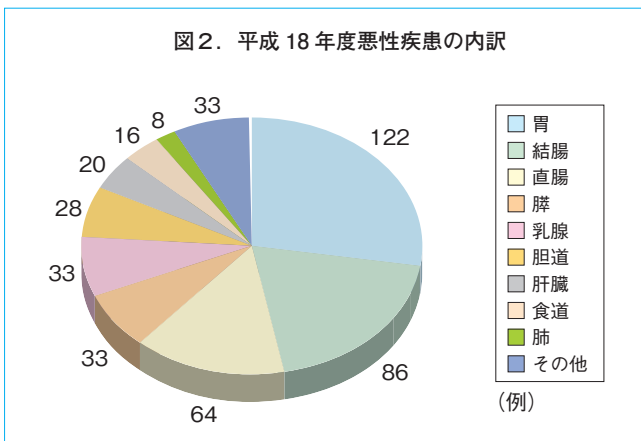
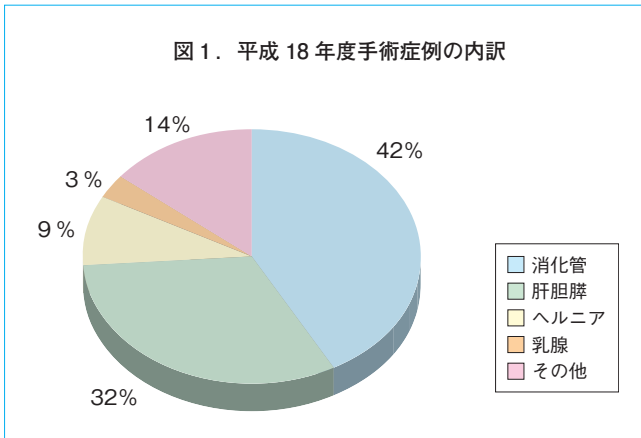
共同指導について：病院機能評価受審を契機として、カルテの2号用紙が医師と看護師で共有となりました。入院の経過がより分かり易くなったのではと思います。お忙しい事とは存じますが、是非会員の先生方の共同指導をお待ちしております。宜しく御指導下さい。

診療実績

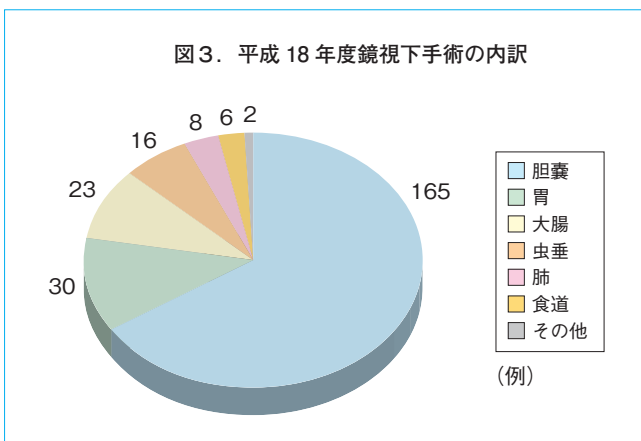
開院当初を除き年間の手術件数は1,000例台を維持しています。平成18年度も手術総数1,050例、緊急手術232例（22.1%）でした。過去23年間を通して緊急手術は常に20%前後です。その総括が『腹部救急の臨床』（医学図書出版）として出版されました。会員の先生方の施設にもお届けしております。日常の臨床に役立てて戴ければ幸いです。

実績：平成18年度の手術総数は1,050例で、全麻961例、硬・腰麻26例、局麻63例でした。緊急手術は232例（22.1%）とほぼ前年並みでした。疾患別では、食道から直腸・肛門にいたる消化管疾患440例、肝胆膵疾患337例、ヘルニア93例、乳腺疾患33例などでした

(図1)。全体の42%が悪性疾患で、主なものは胃癌122例、結腸癌86例、直腸癌64例などでした(図2)。



近年増加傾向にある内視鏡(補助)下手術は、250例と全体の23.8%を占めています。主な術式は胆嚢摘出術165例、胃切除30例(幽門側切除23例、全摘7例)、大腸切除23例、虫垂切除16例、肺切除8例(悪性4例、良性1例、肺ブラ切除3例)、食道亜全摘6例などでした(図3)。腹腔鏡下胆嚢摘出術は標準術式となりましたが、食道・胃・大腸はこれからという施設が多いと思います。当院では早くから消化管手術に対する腹腔鏡補助下手術を導入し、平成19年3月末現在で食道36例、胃160例、大腸133例と県下でも屈指の手術数



を経験しています。御希望の患者様、適応と思われる症例がありましたら遠慮なく御問い合わせ下さい。

また肝臓外科チーム(石崎:平成17年6月赴任、門野:平成17年10月赴任)の努力により、肝臓癌に対する肝切除、胆嚢癌に対する拡大手術(肝切除を伴う)が確実に増加しています(平成17年度:15例、平成18年度:19例)。良好な手術成績により院内の消化器科、放射線科からの信頼も厚く、着実に実績を伸ばしています。さらに平成19年4月からは呼吸器外科専門医の酒瀬川が赴任しました。昨年8月に新設された呼吸器内科と協力し、一貫した呼吸器疾患の治療体制が整いました。会員の皆様からの紹介を宜しくお願い致します。

なお化学療法症例の増加に伴いCVポート(中心静脈カテーテルと皮下埋め込みポート)留置症例も増えてきました。手術室に設置されていたポータブル・レントゲンイメージが最新の機器に更新されたため、手術室でのCVポート留置が可能となりました。会員の皆様の御要望にもお応えしますので、お問い合わせ下さい。

おわりに

最後になりましたが、この厳しい医療環境の中で前年同様の手術実績を残せたのは、一重に御紹介を戴いた先生方の御陰です。この書面を借りて厚く御礼申し上げます。今後も田畑副院長を中心として外科一同一丸となって手術成績の向上と新しい技術の習得に励んでいきたいと思っております。これからも引き続き御支援と御協力を御願致します。



職場紹介

「診療放射線技師室」のご紹介



診療放射線技師室 技師長
橋口 善治

現在10名の放射線技師と3名の受付助手の計13名で構成されています。業務内容は、胸腹部撮影などの一般撮影、胃X線検査、CT、RI、MRI、IVR-CT、心臓カテーテル検査などに分かれています。私たちの役割は最終診

断病院として患者さんに納得していただける満足度の高い画像情報を提供することにあります。それは技師1人ひとりが意識改革をし、患者満足度の高い医療提供の実践策を具体的にどのようにするかを考え、いつも新しい知識、技術を取得するための継続教育を行う事で可能になります。日本放射線技師会は臨床実習指導教員、放射線機器管理士、放射線管理士、医用画像情報管理士の4資格を認定していますが、各自これらの資格取得を第1の目標に日々研鑽努力を継続しています。医療法で医療機器の安全管理について明記されており、今後の医療機器管理業務における放射線機器管理士や診療放射線技師の責任の重さが増してくることが予想されます。

勤務体制は夜間、休日の当直制となっており、救急時には全ての検査に対し迅速な対応が可能です。検査機器の高性能化による検査内容の専門性を損なわないよう各装置に対し責任者を決めて専門的検査に対応していますが、当直時には1人で全ての検査を処理することが要求されますので通常時間帯には全員が全ての検査を満遍なく経験することでどの検査に対しても的確な対処ができるようにしています。

各検査について説明します。人間ドックでは、胸部撮影、胃透視、乳房撮影などを行っており、特に乳房撮影については女性技師が専属で対応しています。CT検査は16チャンネルのマルチスライスCT



マルチスライスCT装置

装置で対応しています。短時間撮影で広範囲かつ詳細で多数の画像が得られるようになり、得られた連続したデータから体のあらゆる方向の断面や3D画像（立体画像）を作成して診療に役立てています。MRI検査は1.5テスラの超伝導装置で良質な画像を得ています。IVR（インターベンショナルラジオグラフィー）、画像診断介入下治療では狭くなった血管にバルーンカテーテルを挿入し拡張する、悪



MRI装置

性腫瘍に対し抗癌剤を局所的に流す、出血が止まらない時その血管を塞ぐ物質を流し止血するなどの治療を行っています。

近年、放射線医療被ばくが取りざたされていますが、当放射線室では、DR（デジタル・ラジオグラフィ）透視装置、CR装置、直接変換方式FPD（フラット・パネル・ディテクター）使用装置等低い線量で検査が可能な機器類を備え、出来る限り少ない線量で最高の画質を提供する事を目標に取り組んでいます。撮影するときの放射線線量は日本放射線技師会が推奨している基準を大幅に下回る線量で診療に対応しています。このように患者さんに安全、被ばく、画像の面で満足していただけるよう頑張っています。



IVR-CT装置



【基本理念】

患者様の意思と権利を尊重し、会員や地域の医療ニーズに応え、安全で質の高い誠実な医療を提供します。

【基本方針】

- 1) 医療を通じて地域社会への貢献
- 2) 救急医療の推進
- 3) 専門性を追求した高度医療の実践と連携の強化
- 4) 予防医学と医療人教育

トピック

認定看護師誕生！！

ICUの櫻木真理子です。今回、第15回認定看護師認定審査に合格し、念願の皮膚・排泄ケア認定看護師になることができました。皮膚・排泄ケアでは人工肛門や失禁など排泄に問題を抱えている患者さんや褥瘡や瘻孔などでスキンケアの必要な患者さんが対象となります。



まだ、ほとんど活動できていない状況ですが、今後は少しずつ活動を広げていこうと考えています。よろしくお願いします。

お知らせ

会員の先生方へ

当院は会員の先生方の共同利用施設です。以下事項についてご案内いたします。

ご利用・ご参加の程よろしくお願ひいたします。

(詳しくは、当院「会員利用の手引き」をご参照ください。)

①共同指導

当院（開放型病院）に、診察した患者様を入院させた保険医（院外主治医）が出向き、その患者に対し医療指導を行った場合に1患者1日につき1回算定できます。

○開放型病院共同指導料（Ⅰ）350点（会員施設で保険請求）

○開放型病院共同指導料（Ⅱ）220点（医師会病院で保険請求）

②共同手術

会員が紹介患者について、院内医師と共同で手術を行った場合、術者・介助者の別を問わず、その手術料の50%を開放型病院共同手術料として会員へお支払いいたします。

(共同分娩についても開放型病院共同分娩料をお支払いいたします。)

③術前・術後カンファランス

毎週木曜日午後6時から行っております。参加ご希望の際には、医療連携室へお問合せください。紹介患者様の該当カンファランスをお知らせいたします。

新入職員（新任医師）紹介

外科医長

<プロフィール>

(H 19. 7. 1～)

名 前 中島 三郎

診 療 科 外科

出 身 県 鹿児島県

出身大学 鹿児島大学
(平成 3 年卒)

前勤務先 県立大島病院

趣 味 ゆっくり走る事
独身の頃は梅干や白菜をつ
けていましたが、今は全く
していません。



医師会病院で仕事でどれだけ鍛えられるか、楽しみです。
子供は今年で 4 歳、3 歳、腹の中に 1 人います。

外科医長

<プロフィール>

(H 19. 4. 1～)

名 前 酒瀬川 浩一

診 療 科 外科

出 身 県 鹿児島県

出身大学 鹿児島大学
(平成 4 年卒)

前勤務先 鹿児島大学病院



頑張ります。よろしくお願いします。

循環器内科医長

<プロフィール>

(H 19. 4. 1～)

名 前 福永 研吾

診 療 科 循環器内科

出 身 県 鹿児島県

出身大学 鹿児島大学
(平成 15 年卒)

前勤務先 出水市立病院

趣 味 スポーツ



若輩者ですが、精一杯がんばりますので
よろしくお願いします。

消化器内科医師

<プロフィール>

(H 19. 3. 1～)

名 前 中武 信純

診 療 科 消化器内科

出 身 県 宮崎県

出身大学 鹿児島大学
(平成 7 年卒)

前勤務先 今給黎総合病院



よろしくお願いします。

外科医師

<プロフィール>

(H 19. 4. 1～)

名 前 山本 啓介

診 療 科 外科

出 身 県 鹿児島県

出身大学 鹿児島大学
(平成 14 年卒)

前勤務先 霧島市立医師会
医療センター

趣 味 ドライブ



自分のペースで頑張ります。
よろしくお願いします。

消化器内科医師

<プロフィール>

(H 19. 4. 1～)

名 前 指宿 和成

診 療 科 消化器内科

出 身 県 鹿児島県

出身大学 鹿児島大学
(平成 14 年卒)

前勤務先 県立大島病院



4 月からお世話になっています。至らない点多々あると
存じますが、よろしくお願い申し上げます。

新入職員（新任医師）紹介

神経内科医師

<プロフィール>

(H 19. 4. 1～)

名 前 しのほら かずや 篠原 和也

診 療 科 神経内科

出 身 県 鹿児島県

出身大学 鹿児島大学
(平成 16 年卒)

前勤務先 鹿児島大学病院

趣 味 水泳



まだ、年数も浅く、非常に未熟ですが
がんばっていきますので、よろしくお願い致します。

麻酔科医師

<プロフィール>

(H 19. 7. 1～)

名 前 くめむら まきてる 久米村 正輝

診 療 科 麻酔科

出 身 県 鹿児島県

出身大学 九州大学
(平成 17 年卒)

前勤務先 鹿児島大学病院

趣 味 旅行



手術麻酔に限らず、ICU も救急も頑張ります。
毎日忙しくても充実した日々を過ごせたらと。

(編集子註)

鹿児島市医師会病院シンボルマーク



鹿児島市医師会病院 連携室だより No. 7

創刊日：平成17年8月10日

発行日：平成19年8月10日（年3回 4・8・12月発行）

発行者：〒890-0064 鹿児島市鴨池新町7番1号

鹿児島市医師会病院 院長 山口 淳正

担 当：医療支援部 医療連携室

T E L：099-254-1125（代表）

T E L：099-254-1121（連携室直通）

F A X：099-254-1308（連携室直通）

ホームページ：<http://www.minc.ne.jp/kasiihp/>

ご意見などございましたら、お気軽にご連絡ください。